

1. 評価報告概要表

作成日 平成21年 7月14日

【評価実施概要】

事業所番号	1070600224
法人名	医療法人 大誠会
事業所名	医療法人 大誠会 グループホームゆうゆう・うちだ
所在地	沼田市久屋原町345-1 (電話) 0278-23-7577

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成21年7月14日

【情報提供票より】(平成21年6月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年4月 1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	23 人	常勤	19人, 非常勤 4人, 常勤換算 22人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	4 階建ての	2 階 ~	4 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	46,500 円	その他の経費(月額)	水道光熱費 250円/日
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	250 円	昼食 350 円
	夕食	400 円	おやつ 150 円

(4) 利用者の概要(6月28日現在)

利用者人数	27 名	男性	5 名	女性	22 名
要介護1	6 名	要介護2	10 名		
要介護3	5 名	要介護4	4 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.3 歳	最低	78 歳	最高	101 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人大誠会内田病院、割田デンタルクリニック
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

周りには林檎園が広がり家電量販店やスーパーマーケットが立ち並ぶ国道120号沿いに、母体の内田病院に隣接して4階建てのホームがある。当ホームは、介護予防、認知症の方の通所介護、医療連携体制、短期共同生活介護の指定を受けて、多機能な介護サービスを提供している。また、健康状態の変化には、隣接の病院で24時間対応をしている。入居者の居室には、馴染みのある筆筒や時計、家族の写真等が持ち込まれ、一人ひとりのペースを大切に生活を支援している。天気の良い日は散歩に出かけたり、食事の準備や後片付け、洗濯物たたみ等をしたり、アートセラピーで絵画を楽しんだり、音楽療法で習った和太鼓を納涼祭で披露したり、編物の趣味を活かしアクリルたわしを作り中学校に提供するなど、ホーム内の仕事や役割が提供できるよう支援している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回改善項目から、理念の見直しを行い地域との関係性を理念に謳い、評価の意義を理解し自己評価を全職員で実施する等取り組んでいる。鍵をかけないケアについては、検討中である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者及び職員は、評価の意義を理解しており、各ユニット毎に職員は話し合いをして各ユニットリーダーがまとめている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月毎に開催され、利用状況や行事運営報告、評価結果報告を議題に話し合いをしている。出席者の意見から、グループホームの活動状況を地域の方に周知して地域との関わりを深めるように、お便り「ゆうゆう通信」を自治会の回覧板で回覧している。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>苦情相談受付窓口は重要事項説明書に明記して、入居時に説明している。意見箱を設置し、家族の面会時には入居者の健康状態や生活ぶりを伝えながら意見や要望等を出して頂けるよう働きかけをしている。また、毎月のお便り「ゆうゆう通信」に、入居者の生活や行事の様子等を写真で掲載し、心身の健康状態や生活の様子、介護計画等が詳細に書かれた報告書等を同封して各家庭に配布している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>入居者は、散歩に出て近隣の方と挨拶を交わしたり、道路のごみ拾いも職員と一緒にしている。地域の納涼祭や中学校の運動会の招待を受け参加したり、法人が主催する納涼祭に近隣の方を招待している。また、中学生の体験学習を受け入れ将棋を指したり、近隣の幼稚園の子ども達とらんど狩りしたり、地元農家のボランティアの方と一緒にじゃがいもや玉ねぎ等の収穫を楽しみ、地域との交流を深めている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で理念を見直し、「家庭的な環境のもとでゆったりと穏やかに過ごし可能な限り地域の一員として自立した生活を支援する。」と、地域との関係性を謳いホーム独自の理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、新規採用職員に入職時のオリエンテーションで説明し、毎日の朝礼時に唱和し、ホーム内に掲示している。職員は、入居者を家族の祖父母や親のように思い、自宅で使い慣れた家具等を持ち込み家庭的な環境作りをしている。また、掃除や調理、野菜や花を育てる等の入居者のできる事を支援をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	入居者は、散歩に出て近隣の方と挨拶を交わしたり、道路のごみ拾いも職員と一緒にしている。地域の納涼祭や中学校の運動会の招待を受け参加したり、法人が主催する納涼祭に近隣の方を招待している。また、中学生の体験学習を受け入れ将棋を指したり、近隣の幼稚園の子ども達とりんご狩りをしたり、地元農家のボランティアの方と一緒にじゃがいもや玉ねぎ等の収穫を楽しみ、地域との交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	各ユニット毎に職員は自己評価項目を振り返り、会議で話し合いをし、各ユニットリーダーがまとめ作成している。昨年の外部評価から、理念の見直し、災害対策、評価の意義と活用について話し合い、改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月毎に開催され、入居状況、行事運営報告、評価結果報告、介護報酬の改定等の議題について話し合いがなされている。出席者の意見から、グループホームの活動状況を地域の方に周知して地域との関わりを深めるように、お便り「ゆうゆう通信」を自治会の回覧板で回覧している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の主催する介護保険等の研修会に出席している。ホームのクリスマス会や納涼祭には市の担当者を招待し、情報交換をしている。事業運営では、電話で市の担当者に相談をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等の面会時に、入居者の暮らしぶりや健康状態を報告をすると共に、月次報告書(心身の健康状態を示す血圧や体温、入浴、食事、排泄、睡眠等の生活面、心理面、介護計画等)、毎月発行の「ゆうゆう通信」、金銭を預り日用品購入の為の領収書等を、毎月の利用請求書と一緒に各家庭に送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談受付窓口は、重要事項説明書に明記し、入居時に説明している。また、意見箱を設置し、家族の面会時には声をかけ意見や要望を言ってもらえるよう働きかけている。苦情等については、法人が設置する苦情解決第三者委員会に報告し、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は、法人やホームの退職者が重なった場合は止むを得ないが、極力行なわないようにしている。新規採用職員には、教育担当者が日常業務の中で教育し、夜勤業務については教育担当者と複数夜勤をした後に、就くこととしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県主催の実践、リーダー、管理者研修や地域密着型サービス連絡協議会の研修に出席し、報告書を作成し、会議で報告している。法人内では、新人、中堅、感染症等の研修会を年間研修計画に基づいて実施し、全職員の資質向上を図っている。また、研修報告書はファイルされ、職員に供覧している。新人職員には先輩が付き指導を行い、働きながらトレーニングをしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入し、レベルアップ交換研修、グループホーム大会に出席し、同業者との交流をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の希望があると、ホームに来て頂き、お茶を飲んだりしながらホームの雰囲気を知って頂いている。来られない場合は、ケアマネジャーが自宅や病院、老人保健施設等に出向き、本人や家族から話を聞いて相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、祖父母や親に接するようにコミュニケーションをしている。畑仕事をしていた入居者には、野菜の収穫の仕方を教えてもらっている。味付けや野菜の下拵え等しながら、物を大切にすること、礼節を忘れないこと等の人のあり方を学び、共に支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時には調査票から情報を得たり、本人に寄り添いコミュニケーションをとり把握に努めている。また、困難の場合は、家族から聞きながら、職員間で検討をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面会時や電話で、本人や家族の希望や要望を聞き、職員は入居者2～3名を担当し、毎月のカンファレンス時に中心となって話し合い、ケアマネジャーが介護計画を作成している。家族には、介護計画の了承を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、3ヶ月の期間となっている。モニタリングについても3ヶ月毎に行なわれるが、心身の状態の変化や家族からの要望等があると直ちにミニカンファレンスで検討し、現状に即した新しい計画作成がなされ、申し送りや連絡ノートで伝えられている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診は家族の同行となっているが、無理な時には職員が同行している。また、母体病院の受診は職員が同行している。買い物や近隣の美容院に職員と一緒に出かけたり、毎月美容ボランティアの訪問があり無料でカットをして頂いている。介護予防、認知症通所介護、医療連携体制、短期共同生活介護等の指定を受けて、支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望により、入居前からのかかりつけ医とする入居者と母体病院に変更を希望する入居者がいる。母体病院の定期的受診には、職員が同行している。眼科や他の受診時には、家族の同行が無理な場合は福祉タクシーを利用し職員が同行している。歯科医に往診に来て頂いたり、急変時は母体病院が24時間の対応をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は、本人、家族、医師、ホームで話し合いをしている。医療的処置の必要性からやむなく入院となったケースがあり、繰り返し話し合い方針を共有している。看取りについては隣接する病院のかかりつけ医や看護師と連携して対応を検討していくこととしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄時は小声で耳元で伝えるなど、誇りを損ねない対応をしている。個人記録類は、事務室に保管している。また、個人情報に関する物や個人名のある薬袋等は、法人が一括して焼却処理をしている。個人情報の秘守義務については、入職時に誓約をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩に行きたい、テレビを見たい、居室に居たい等本人の希望に添って支援している。食事のペースも速い方、ゆっくりの方一人ひとりのペースを大切にして柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、配膳、下膳、食器洗い等を行っており、職員と入居者は同じテーブルを囲み食事をしている。月1回「寿司の日」を定め出前寿司を賞味したり、昼食時に毎日テーブルの位置を換え座席を自由とするレストラン方式を採用しているユニットがあり、楽しく食事出来るよう雰囲気作りをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回午後の時間帯の入浴となっているが、希望により午前や毎日でも入浴が出来る。入浴を拒否する入居者には、タイミングや言葉かけを工夫したり、足浴や清拭、更衣で対応している。また、草津温泉の入浴剤や菖蒲湯や柚子湯、地元産林檎を利用した林檎湯を行ったり、仲の良い2人での入浴をしたり、歌を歌ったりしながら楽しい入浴を支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	長事の準備や片付けをしたり、仕事と心得て職員と一緒に入居者の面倒を見たりしている。また、社交ダンスや将棋、アートセラピーで絵画を楽しんでいる。音楽療法で習った和太鼓を納涼祭で披露したり、編物の好きな入居者はアクリルたわしを作り地域の学校に提供する等、ホーム内で力を活かした仕事の役割を支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	大気の良い日は近隣を散歩したり、散歩を兼ねて大型電気店の見学をしたり、ドラッグストアやファーストフード店等で買い物をしている。また、体調にあわせて、玄関先の椅子で花を愛でながら外気浴をしている。また、年間行事計画を立て、桜の花見、紅葉狩り、林檎狩り、外食等に出かけている。屋上やベランダで花火見物など、建物の構造を行かして出来る限りの戸外に出るよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者や職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、階段の扉の鍵は夜間を除きかけてはいないが、入居者の見守りが困難な状況においては施錠することもある。安全の為にエレベーターは暗証番号で作動し、使用方法を掲示している。	○	入居者の安全に配慮し、引き続きエレベーターを自由に使える工夫を期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の指導の下で、夜間を想定しての火災訓練を行い、避難経路、消火器の使い方等を確認している。職員同士で災害時の避難について日頃から話題にあげている。また、運営推進会議で、区長、民生委員に災害協力依頼をしているが、近隣の方には協力の依頼はしていない。	○	法人の病院等の協力体制はあるけれども、近隣の方に協力の依頼をされるよう期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士の作成した献立をモデルに、職員は入居者の希望を聞き、旬の野菜を食材に入れて献立を作成している。食事や水分摂取量はチェックされ、その情報を共有している。必要な入居者には、水分や尿量のチェックをし、医師の指導を仰ぎ、体調によって粥食やトロミ食を提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1階玄関から、エレベーターで2. 3. 4階と上がると各ユニットになっている。ホールの食卓テーブルには季節の花が生けられ、ソファやテレビが置かれ、ホールの一角には畳のスペースがあり、入居者が思い思いに過ごす場となっている。台所からは、ご飯を炊く匂い、野菜を刻む音があり、季節感や生活感を採りいれている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、自宅の箆笥、衣装ケース、椅子、テレビ、位牌等が持ち込まれ、カレンダー、アートセラピーで描いた絵、折鶴、家族の写真、縫いぐるみ等が飾られ、壁には好みの洋服が掛けられるなど、本人が居心地よく過ごせるよう工夫をしている。		